

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニットA)

事業所番号	2770901573		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	グループホーム円珠荘		
所在地	高槻市北柳川町2-6		
自己評価作成日	平成29年11月7日	評価結果市町村受理日	平成30年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、利用者様に寄り添い、人格を尊敬し、常に利用者様の立場にたったサービスを提供いたします。住み慣れた地域で家族的な環境のもとで認知症の緩和や悪化の防止を図り、自立した日常を営むことができるよう援助いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年を経過している事業所は4階建ての3階部分に2ユニットを運営し、同施設内にはデイサービスや小規模多機能型居宅介護事業が併設されているが、現在2階を改装中で来春には新たに2ユニットのグループホームがオープンする予定である。管理者は全館の施設長も兼任されているので外部評価時には若いユニットリーダーが真摯に対応された。ベテランの職員との意思疎通を日常的に図り、利用者1人ひとりの状況を把握し、歩ける方には季節に関係なく、日課的な散歩を行ったり、日中は大半の方のおムツを外し、誘導で自立排泄につなげている等、介護度が上がらないケアサービスを実践している。法人は医療法人であり、ホームに看護師を2名配置し、利用者の健康面を日々チェックしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく過ごしていただくことを理念に管理者、職員、家族とも密に連携をとり実践している。	事業所独自の理念を分かり易い場所に掲示し、ミーティング時に職員の共有を図っている。「その人らしく過ごせるように」を職員は現状の人員の中で出来る範囲で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催のイベントや運営推進会議など、地域の方々にご参加いただき、事業所は地域のイベント等に積極的に参加している。	歩ける方は日課のように散歩し、近隣住民と挨拶したり、近隣にある小学校の運動会やグループの春樹会の盆踊り等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方、家族の方々に施設の事例に基づいて認知症にて話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告、活動状況等報告、地域の方、家族の方々の意見を聞き、サービスの向上、改善に取り組んでいる。	外部からは地区福祉委員(民生委員)や地域包括支援センターの代表及び家族が参加され、年6回開催している。利用状況・近況報告・イベント等だけでなく質疑応答の時間を作り、双方向の話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取っており、報告、連絡、相談、しながら運営している。	分からないことがあれば電話で問い合わせたり、市に出向き、市担当者と相談し、助言を得るようにしている。地域包括支援センター主催の勉強会等に参加し、情報を得るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、ミーティング等で身体拘束について理解を深め、施設全体で身体拘束のないケアを実施している。	マニュアルを整備し、年間研修計画を作成し、虐待も含めた身体拘束の勉強会を開催し、職員の共有を図っている。身体拘束につながるグレーゾーン(言葉掛けや便の匂い)には配慮するようにしている。玄関は施錠しているが日課的な散歩を大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティング等で高齢者虐待について理解を深め、施設内で虐待の疑義、徹底的に調査するようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は日常生活自立支援事業成年後見制度が必要と考えられる利用者がそれらを活用できるよう関係機関への橋渡しをする為に、地域で行っている会議などに参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間をかけて利用者や家族に丁寧に説明し、疑問や不安がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置、家族会議等で利用者、家族の意見を聞く、施設運営に反映させる。	家族が訪問された時は出来るだけ家族の意見や要望を聞くようにしている。苦情処理簿は整備しているが最近の記入が無い。家族会を開催しても参加が非常に少ない現状である。	家族はホームに対し、言い難い事を理解し、利用者ごとに現状の暮らしぶりを文章で通知したり、介護計画を全ての家族と話し合う等、開設時の原点に戻り、家族意見の把握に全職員が一丸となって努力することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングで職員の意見や提案を聞き、施設運営に反映させている。	職員会議(ミーティング)は原則、毎月開催している。利用者ごとのケアに関する検討が大半であるが職員の意見は幹部会議で議論し、運営に反映している。法人は新たに開設するグループホームも含め、人材確保に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者、リーダーが定期的な会議にて個人々の職員、職員環境について報告し、職場環境の改善、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の定期研修にて、個々のスキルアップを図ると共に、外部研修についても奨励し、積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会、交流会については、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時にゆっくり話をし、要望や不安を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご本人様、ご家族様からもゆっくり話をし、家族の要望、不安なこと、困っていることを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を聞き、現在必要とするサービス導入し。今後必要と思われるサービスも支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では、職員一同、利用者と家族のような関係で介護するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の実情を正確に報告するとともに家族が不安や本人との関係が劣悪にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人が面会に来られた際には、職員一同快く出迎えて、知人や友人が楽しく過ごしていただくよう努めている。	今まで住まいしていた場所の知人等が来訪している。馴染みの場所として家族の支援で実家に戻ったり、墓参り・美容室及び外食に行かれる方もある。ホームは関係継続の支援が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が参加していただいだけ、個人が孤立しないような、環境づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族とも連絡を取り合い、退所後の支援や相談も受けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望できる限りサービスや支援に取り入れるように、努めている。	入所時のアセスメントで過去の生活歴等を把握し、職員は共有している。利用者や家族とは日常的に会話を大切にし、希望等を聞き、出来るだけ思いに沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の体調や精神状態等に留意し、申し送りを通じて職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のその日の健康状態等、身体の状態等を勘案し、その日の過ごし方を本人と相談して決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の話を聞き、現在必要とするサービス導入し。今後必要と思われるサービスも支援している。	利用者ごとに日々の状況を記録し、計画作成者は職員と相談しながら定期的なモニタリングを実施して現状に合った介護計画作成につなげている。見直しも定期的に行っている。	家族が一番知りたい健康面の状況や暮らしぶりの事実を利用者ごとに家族に説明することや見直した介護計画は漏れなく家族と相談し、同意を得ることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤と夜勤の申し送りは朝と夕方、各10～15分間、記録に基づいてできるだけ詳しく行い情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の過ごし方は、特に決まったプログラムに沿ったものではなく、その日の状態を見て決めて行く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの喫茶店、飲食店、医療機関などに行くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの訪問医を中心に必要に応じて馴染みの医師に医療を受けられる。本人・家族等の希望に応じている。	従来のかかりつけ医に家族の支援で通院している方は1人いるが、大半の方は法人の医師から基本月2回の往診を受けている。法人の歯科医は歯科衛生士とペアで2週間に1回訪問されている。従来精神科医等の専門医に通院している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況や気付きは、常に看護師に報告し、指示を受けるようにしている。また、看護師はかかりつけ医と密に連絡を取るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病院、家族との連絡を密にし、ADLの低下がなく、早期に退院できるよう動きかける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方を話し合い、必要に応じて医療へ経過報告している。状態の変化に応じて、家族と共にケアの方針を再確認するようにしている。	看護師を2名配置し、看取り対応の指針書も整備し、家族に説明している。今まではホームが出来る範囲の対応をしているが最期は病院への配送となっており、看取りの経験はない。今後は職員の看取り勉強会の実施や人員の確保を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時の対応にあたっては、マニュアルに沿って対応するよう職員全対に徹底するようにしているが、定期的な訓練は実施されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤、夜勤を想定した非難訓練を利用者・職員共に参加している。また、スプリンクラーが設置しており自動火災通報装置の導入もしている。	避難誘導訓練は年2回実施している。内1回は消防署の立会いの下で、もう1回は自主で夜間を想定し、実施している。地震や水害時の防災マップも整備し、落下物等への配慮や飲料水・食料品等最低限の備蓄は整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分がされて嫌な事は相手にしない」という指導を常々している。また、格式ばった物言いを好まない利用者にはきさくに話しかける等の配慮をしている。	馴れ合いの中で先輩である利用者のプライバシーを損ねる言葉掛け等に職員が気づいた時は互いに注意し合うようにしている。ミーティング時には言うてはならないような言葉や職員の大きすぎる声等にも配慮するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行動を起こす時には、まず利用者に話しかけて承諾を得る。利用者本人の意思決定できる雰囲気をつくるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方は、スタッフ側の都合ではなく利用者のペースを考え利用者本位を優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、季節に合った洋服選びを支援を行い、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はできる限りスタッフも一緒にテーブルを囲んで摂るようにしている。また、配食業者を変更し、食事の時間をより良いものに支援している。	朝はパン食、昼は外部業者の弁当、夜は調理専門職員が1階の厨房室で調理し、出来立てを提供している。利用者の大半は食欲旺盛で美味しいと完食していると共に出来る範囲で片付け等に参加している。定期的に行事食やおやつ作りを皆で行い、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎回チェックして、記録して申し送る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促しを行っている。自身で出来ない方はスタッフが行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の一人、ひとりのパターンをスタッフで情報交換し、できる限りトイレでの排泄を促す。また、声掛けに配慮し食前・食後、又は便通の薬を服用した場合のご本人の様子に常に気をつける。	布パンツで過ごせる方は5人程いる。夜間はリハパンやパット併用としているが、日中は蒸れ防止も兼ね、オムツを外し、職員は排泄パターンを把握し、自立排泄につなげている。便秘予防として水分補給・食品・体操等の配慮を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の排便を確認する。便秘の方には自然排便を促すための、飲物・食品・体操を工夫する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は個室だが、事業所内にある大浴場で温泉気分を味わっていただく機会もつくっている。	ユニットごとに個室の浴槽があるが、現在1カ所は修繕を行う必要があり、現状週2回の入浴が出来るように曜日を決め、支援している。拒否する方に時間を置いたり工夫し、入浴につなげている。ゆず湯や菖蒲湯等も実施し、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝介助が必要な方へは随時支援し、中々眠れない方には飲物等を提供して心が落ち着くまで寄り添うなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している薬の効能を把握し、確実に服用できるようチェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・たたみ、おやつ作り、食器洗い等、家事でできることは、スタッフと一緒にして頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、1日一度は必ず外出し、歩行訓練をしています。また、季節に応じて郊外へ花見などにも出掛ける。	歩ける方は年間を通じ、日課的に近隣を散歩し、良好な睡眠につなげていると共に介護度が上がらないような支援を実践している。車を使い、季節ごとに花見や紅葉狩り等の外出イベントを実施し、楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は、金銭の管理はスタッフがしているが利用者自ら支払いしてもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人からも電話ができるよう施設内に公衆電話を設置している。また、ご家族や知人から電話や手紙も快く取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間には、できるだけ季節の特徴のあるものを装飾しているが、温度は体感温度に個人差があるため、温度調節が難しい。	居間兼食堂は適切にテーブル等を配置し、壁には皆で作った季節を感じる貼り絵や手作り作品等を飾っている。利用者は介護度の低い方が多く、昼食時にも会話が盛んに行われており、笑顔が絶えない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士、ゆっくり話せるスペースを設けたり、また、利用者同士でのトラブルやいざこざがあった場合には、席を変えたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人の気に入った馴染みの物を置いてもらうなど、本人、家族の意見を十分に聞き部屋づくりに務めている。	ベッドと冷暖房設備は事業所の方で用意されており、利用者は思い思いに置物や家具・テレビ等を居室に持ち込み、ホームはゆったり居心地良く過ごせるように支援している。日々、換気を大切に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーになっており、各室に案内板を掲示しておりできる限り、自立した生活ができる環境づくりを心がけている。		